

- 1 開催日時 平成24年3月27日(火) 15:00～17:00
- 2 開催場所 中央生涯学習センター5階  
人材かがやきセンター研修室
- 3 出席委員 19名  
白井委員長, 影山副委員長, 大森委員, 横山委員, 藤岡委員, 小林委員, 赤坂委員,  
小泉委員, 十河委員, 小島委員, 川村委員, 待山委員, 山村委員, 藤枝委員,  
田野実委員, 栗原委員, 金子委員, 増渕委員, 伊藤委員
- 4 会議の公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴者 0名
- 6 議 事
  - (1) 報告事項
    - ① 平成24年宇都宮市成人式の実施状況について
    - ② 「地域かがやきプロジェクト」の実施状況について
    - ③ 第4回「うつのみや地域教育メッセ」の実施状況について
    - ④ 人材かがやきセンター主催講座について
      - ・平成23年度人材かがやきセンター主催講座の実施状況について
      - ・平成24年度人材かがやきセンター主催講座の実施について
    - ⑤ 宇都宮市民大学について
      - ・平成23年度宇都宮市民大学(後期講座)の実施状況について
      - ・平成24年度宇都宮市民大学(前期講座)について
  - (2) 協議事項
    - ① 平成24年度生涯学習センター事業計画(案)について
    - ② 平成23年度人権教育総合推進地域事業の実施報告及び平成24年度事業計画(案)について
- 7 その他
- 8 閉会
- 9 発言の要旨

白井委員長 皆様こんにちは。お久しぶりでございます。今年度最後の運営審議会となりました。報告事項が5つと協議事項が2つ、次年度へ向けての内容でございますので、忌憚のないご意見、ご質問をいただければと思います。ご協力お願いいたします。

それでは、会議次第に基づいて議事を進めてまいります。

まず、報告事項①「平成24年度宇都宮市成人式の実施状況について」事務局から説明をお願いします。

事務局 【資料について説明】

白井委員長 ただ今の説明について、ご質問・ご意見、また成人式に出席しての感想でも結構ですのでいかがでしょうか。

藤岡委員 まず、広告についてですが、市の職員が地域を回って広告を取るという形になっていましたが、いかがなものかと思いました。

新成人応援ポスターの件で、やはり何件か取らないとまずいということで、地域の団体の所へ行って、まちづくり協議会や自治会連合会でお願いするという形をとったようですが、民間ではなく市の方がそういうことに口出ししているのは、どういうものなのかという意見が一部ありました。

白井委員長 広告を取るのには前向きな形で良い、という雰囲気だったのだと思いますが、では実際に誰がということもあるかもしれません。そのあたりはいかがでしょうか。そういうご意見も市民の中にはあったというところですけども、なにかご意見ありますか？

事務局 成人式の広告事業に対するご意見ありがとうございます。本年度、地域をあげて新成人をお祝いするというで「新成人応援制度」を設け、3つある事業の1つである「新成人応援ポスター」というところで、実施委員会が主体となって活動していくという取組でした。

25の実施委員会がありますので、実施委員さんが自ら行っている地区もありましたし、または事務局となっている生涯学習センターの職員と一緒に、場合によっては最初のお願いのところを事務局で伺うというような、それぞれの取組の仕方があったかと思います。こちらから、このような形でお願いしたというよりも、地域で取り組みやすいやり方で進めていただいたという経過がございます。

今後、藤岡委員から頂いたご意見なども参考にして、改善・改良していきたいと考えているところですので、そういったところは各実施委員会につないでいきたいと思っております。補足になりますが、こういった取組を行うことで、「地域をあげて」という言葉だけでなく、色々な方に関わっていただいたと考えております。また実施委員会の中では皆様から頂いた

貴重な財源でありますので、有効に活用して事業の充実を図っていこうという意識が高まったと、また別の所のご意見としても伺っていますので、ぜひとも今年度スタートしたこの制度を次年度より拡充できるよう、必要な改善・改良はしていきたいと考えています。

横山委員 行政が地域へ出ているということに対して意見が出ているようですが、私はどんどん出て行っていいと思います。役所の中だけに留まっていないで、地域との関係構築のために大いに賛成です。

事務局 ありがとうございます。そのようなご意見も、次年度につないでいけたらと思います。

小林委員 会場に掲示したポスターについて「企業名が小さい」、「見えづらい」という意見がありました。

臼井委員長 それは会場によってかも知れませんが、そのあたりの配慮も、せっかくご協力いただいたので、必要かもしれません。

小泉委員 清原中学校の会場に出席させていただきました。式典が終わりましたら、司会者のほうから「来賓の方は退席してください」と言われ、居座ってるわけにもいかない状況でした。時間が短いので恩師だけ残ってという形でもいいのかと思いました。

臼井委員長 会場すべてに徹底されていなかったという部分もあるようです。

十河委員 姿川ではそのような指示はなかったのですが、「時間があればその次もどうぞ」というご案内でした。

小島委員 横川もそういう指示はなかったのですが、私たちが入る余地はないかと思い、退席しました。

臼井委員長 アンケートを見ても、懐かしい先生にお会いしたいということで、地域の皆さんのご尽力は新成人もお分かりだと思いますが、それよりも会いたい人の方がというところかも知れません。

藤岡委員 星が丘地区の成人式に参加させていただいたのですが、こちらは宇都宮大学附属中学校と一緒にということで星が丘中学だけで7クラス位、附属中学も4クラス、合計で11クラス、参加人数も322人となっています。地域振興事業のほうでは写真を撮るのでめいっぱい、他の人数の少ない学校では、地域の親交を深めるような行事をされたそうなのですが、とて

もそんな時間がなかったとのこと。うちの子も昨年成人式だったので、先生と写真を撮っただけで終わったようです。二つの中学を分けるとか、場所的に無理であれば、写真店を2軒雇うなどすれば、時間が半分余るわけです。そういうような努力は出来ないものでしょうか？

事務局

今のご意見に限らず、様々な地域中学校区単位で、実施委員会が色々企画をして運営をしてきています。成人式そのものをお祝いする場というものから、中学校区単位でやっていますので、自分たちの地域をより知ってもらおう、地域に目を向けてもらうきっかけにしたいという狙いもあって、少しずつ地域交流事業などの充実を図っているところです。

工夫の一つとしては、新成人応援ポスターを入口ロビーのあたりで記者会見などで良く見るバックボードのような仕立てにして、その前で記念写真をそれぞれが撮るようにしている会場もありました。式典後の地域交流事業にそのまま継続してお客様に残っていただく所も、それぞれの実施委員会で決めて、会場の大きさの問題などもあり、統一が図れてないのが現実です。

そういう取組を始めたところですので、今日いただいた様々なご意見を次年度につなげまして、今年度よりもさらに充実した事業となるように努めていきたいと考えています。

臼井委員長

各実施委員会がそれぞれの会場・地域・新成人に合ったきめ細かな企画と運営をとることなので、この場でご意見が出ると、皆さんの共有の情報になります。皆さんは地域でご活躍の方々なので、実施委員会を通してというお話が出来るようであれば、そちらにもぜひ力強く関わっていただけたらと思います。

川村委員

成人式に10年ぶりに来賓として出席してきました。それまでは中学校の体育館でやっているときに出席していましたが、今回のやり方は素晴らしかったと思いました。中でも市長のビデオメッセージは素晴らしかったと思っています。実施委員が考えたことでしょうか、小学校の恩師を呼んでいました。これがまた、子ども達の反響が良かったようです。大変、創意工夫がされたものでした。ただ、式典がおわると来賓が一斉に立って帰ってしまうものですから、残ってみようかなと思っても残りづらい雰囲気があります。全体を通して大変素晴らしい成人式だったと思っています。

臼井委員長

ありがとうございます。では、成人式に関してはこのあたりでよろしいでしょうか。ご意見ありがとうございます。

次に報告事項②「地域かがやきプロジェクトの実施状況について」事務局から説明をお願いします。

事務局	【資料について説明】
臼井委員長	ただいまの説明について、ご意見・ご質問がありましたらお願いします。 特になければ、この件につきましては以上でよろしいでしょうか。 次に参ります。報告事項③「第4回うつのみや地域教育メッセの実施状況 について」事務局から説明をお願いします。
事務局	【資料について説明】
臼井委員長	ありがとうございます。ただいまの説明で、ご質問・ご意見があればお 願います。 いらした方はいらっしゃいませんか。
大森委員	私は主に「今泉宮っ子ステーション」を運営している立場から、「宮っ子 ステーション」の掲示・活動内容を聞いてまいりました。その他に工作教 室や、小さなわらじ作りなど体験もお子さんたちも一生懸命になって目を 輝かせている姿を拝見して、「宮っ子ステーション」の子ども達にもこう いうことをさせたいなということが多々ありました。参考になりました。 ありがとうございます。
伊藤委員	私も今回、南図書館で開催した地域教育メッセに行かせていただきました。 去年までの文化会館では生涯学習関係者が多く、それ以外の方がほとんど 見えていない。今回は、他の催しもあったのでしょうか、地域の人が 子どもを連れて来ていて、それも若いお父さんが大変多かった。ですから、 これは大変素晴らしい会になったなと思いました。来年からも、河内生涯 学習センターから順番に各地域で、そこで活動している人達にはバザーの ようなもので模擬店など出してもらえれば両方一緒になって盛り上がり いくし、関わる人たちも「河内へ行ったことないけどこういう状況なんだ」 「北はこういう場所でこういう設備があるんだ」と理解できますから、各 生涯学習センターで順番にやられたらどうかと思った次第です。
臼井委員長	「うつのみや人づくりフォーラム」と同時開催というのは、今回だけのや り方でしょうか。
事務局	昨年度は、「うつのみや人づくりフォーラム」が「うつのみや人間力向上 フォーラム」という名前で、文化会館のホールを使ってやっておりました。 「地域教育メッセ」は文化会館の展示室を使って実施しました。相互の乗 り入れ、行ったり来たりが難しかった点を踏まえまして、今回は南図書館 という場所で会場同士の行き来が良かったものですから、沢山の人がご覧 いただけたと思います。

白井委員長	<p>会場のセッティングによってという所もあるので、さきほどの伊藤委員のご意見の場所を移動していくというのも楽しいと思いますが、そのときはまた工夫が必要かも知れません。ほかにいかがですか。これに関しては以上とさせていただいていいでしょうか。</p> <p>では、報告事項④「人材かがやきセンター主催講座について」今年度の実施状況と次年度の計画について、事務局からお願いします。</p>
事務局	【資料について説明】
白井委員長	<p>ありがとうございました。委員の皆様、ご質問・ご意見お願いいたします。</p>
影山副委員長	<p>私は「まちなかでスローな夜を過ごしませんか」に参加させていただきました。宇都宮にはこんな気づかない素晴らしいところがあったのか、こんな面白いところがあったのかと考えさせられました。若い方も参加しておりました。老若男女で、地域を知るということで本当に参考になった講座でした。こんなおしゃれな講座、また次年度は「粋だね」というテーマの講座がありますので、また楽しみに参加したいなと思っています。</p>
白井委員長	<p>平成24年度の講座名も講座の内容ももちろんですが、工夫が見られてタイトルで心惹かれる工夫があったと思います。タイトルで内容がいまひとつ分かりにくいとか、抽象的というご意見が出るかも知れませんが、講座名でまず目を惹いたら次に講座内容も柔らかい言葉でそれをもう一押しするような、面白そう、参加してみたいと思わせるようなリードのようなものをつけると良いと思います。</p> <p>人材かがやきセンター主催講座は、その底流には学んで欲しい、知って欲しいということがありますが、硬くなりすぎずにまず間口を広げて、敷居を下げて参加していただいて、じわじわと分かってもらいたいという気持ちが表れた講座名ですし、講座のセッティングだと感じます。</p>
横山委員	<p>各生涯学習センターでそれぞれやるのが違うのですか。</p>
白井委員長	<p>人材かがやきセンター主催講座について、整理して説明をお願いします。</p>
事務局	<p>人材かがやきセンターはこちらの4階に事務室があり、人材かがやきセンター研修室をメインの会場として各種講座を実施しています。各生涯学習センターは人材かがやきセンターで各地域の課題を指導、また一箇所ですべて全市的にやったほうがいい事業やなかなか人が集まらないが一箇所であれば集まる事業、また先駆的な事業等に取り組んで後々各生涯学習センターで実施する等の役割になっています。</p> <p>今ご説明させていただいたものは、基本的にはこちらの会場で、市民の方</p>

は誰でも参加できるような形で実施させていただいています。

横山委員 できれば他でもやっていただければありがたいです。ここだけだとなかなか周辺からは参加できない。

事務局 今年度、学校支援ボランティアの講座を人材かがやきセンターで実施しまして、南生涯学習センターが「ぜひうちでもやってみよう」とのことで、緑が丘地区を中心にやっていただいたところです。このような展開を今後、図れるような事業をどんどんやっていきたいと思っておりますので、ご参加いただければと思います。よろしくお願いいたします。

十河委員 いいタイトルなので、ここだけでなく出前講座などで実施していただければ、各実施会場・各生涯学習センターで利用できると思います。大変だと思いますが、ご検討いただければと思います。

藤岡委員 昨年度の「remember 3. 1 1 in とちぎ先行体験会」ですが、戸祭地域コミュニティセンターの職員がこちらの講座を受けられ、持ち帰って、宇都宮大学の協力を得て、コミセンで地域の方を集め同じようなものを実施し、大変好評でした。

臼井委員長 そのような流れが沢山あるといいなと思います。先駆的な、あるいはチャレンジな、パイロット的な講座だと思いますが、それぞれの地域で発展させることが出来る講座だと思えます。  
今回、講座名の付け方は各地域で面白そうだと思ってもらえるアイデアが表れていると思います。  
この件については以上とさせていただきます。  
報告事項⑤「宇都宮市民大学について」今年度の実施状況と次年度の計画について、事務局から説明をお願いします。

事務局 【資料について説明】

臼井委員長 ありがとうございます。ご質問・ご意見お願いいたします。

影山副委員長 私も楽しみにして出た講座もありますが、市民大学は高齢の方が多いです。高齢の方はアクティブなものよりは、受身なものを好む傾向にあります。通って来ることにより健康維持・認知症予防になるという方もいらっしゃいます。文学的なものを気楽に楽しめる講座などが減ってしまっているという声を聞きます。時代の流れもあると思いますが、中央生涯学習センターに公共のバスを使って離れている場所から通い、「著名な先生が講師としてお見えになるので楽しみにしている」という話も聞きます。時々はその

のようなものも、入れていただけるとありがたいと思います。

臼井委員長

私も文学系の市民大学の講座を受けたことがあります。あふれんばかりの人で大変わくわくするような講座でした。その時の作新学院の講師の先生と今もお付き合いがあり、色々なことを連絡しています。熱気あふれる講座でした。

横山委員

講座はどれくらいの講師謝金がかかりますか？

事務局

大学教授クラスは3万円、一般にご活躍されている方は1万円等、差はありますが宇都宮市役所の規定に準じお支払をしています。

臼井委員長

受講以外で、講師の先生にお話を聞く機会がありますが、市民の皆さんが熱心に聞いてくださるのが嬉しくて、謝金の問題ではないとおっしゃる先生がほとんどです。お仕事ですから大学の講義もなされますが、市民の皆さんが毎回楽しみに聞いてくださると、それが一番嬉しいことだとおっしゃる先生が複数いらっしゃいます。

市民大学については、以上とさせていただきます。

協議事項①「平成24年度生涯学習センター事業計画（案）について」事務局から説明をお願いいたします。

事務局

【資料について説明】

臼井委員長

ありがとうございました。前回の運営審議会でご承認いただきました「生涯学習センター事業運営の考え方」を踏まえて、計画を立てた事業ということ。事務局から新規事業中心に説明がありましたが、資料にお目を通しいただいていると思います。ご意見・ご質問いかがでしょうか。

伊藤委員

生涯学習コーディネーター養成講座を毎年やっていますが、だんだん人数が減ってきて、去年も10人位しか受講生がいませんでした。私も何年前に受けて、今、お手伝いをしています。前半は講習を受けて、後半のところは各生涯学習センターに書いてありますが、自分達で企画し講座をやってみなさいとなっていますが、生涯学習コーディネーターが何をやるかについてももう少しPRをしたほうが良いのではないのでしょうか。そのためには、自分達で企画してやるだけでなく、まず初年度は各生涯学習センターの企画に参加してお手伝いし、それがだんだん定着してくれば職員さんから引き継いでコーディネーターに任せますという幅があっても良いと思います。

また宮っ子ステーションは色々な企画をして学校ごとにやっているの、自分が住んでいる地域の宮っ子ステーションのお手伝い・企画もやれます



といった幅を広げれば、地に足の着いた方向に動くと思います。私が一緒に活動した人も、何割かの方は「私たちが企画して思い通りの講座が出来ないからもう出てこない」と言って出てなくなった人もいます。もっと「こんな活動もありますよ」という活動の幅を広げたほうが、応募される方も多くなると思います。ぜひ仕組みを構築していただければと思います。

影山副委員長 コーディネーター養成講座は養成後どのようにつながり作っていく必要があるのかと感じていました。人材育成と謳われているのですから、講座を受けた方達が地元に戻ってボランティアのようなものにつながっていくのかなと思っているのですが、講習して一度企画をして、その後の活動が良く見えない。せっかく何回も講座に参加してわけですから、その方達がそれぞれの地域で学んだことが活かせるようなシステム作り・受け皿を作っていくことをやっていってもいいのかなと感じています。

臼井委員長 ありがとうございます。他にいかがですか。

田野実委員 今回の生涯学習センター事業計画が、第2回生涯学習センター運営審議会承認された事業運営の考え方に基づいて、色々な工夫がされた事業計画となっているのを拝見して、運営審議会で作る考え方を考えるときに沢山議論する必要があることを改めて考えさせられました。

臼井委員長 前回議論したという記憶もありますが、さらに積極的にというふうに思います。いかがでしょうか。

十河委員 生涯学習コーディネーター養成講座を終了された方については、各生涯学習センターに連絡しているということですか。

事務局 生涯学習コーディネーターは、今年度、57名の方にご登録をいただいております。それぞれご登録いただく場合には中央・東・西・南・北・上河内・河内の生涯学習センターのいずれかに所属する、もしくは市民大学の企画・運営にご協力いただく形で、どちらのセンターで活動希望しますかという案内とともにご登録いただく形となります。地区市民センター併設館については、コーディネーターは配置していない状況です。実際には、コーディネーターの講座の枠をセンターでは持っており、コーディネーターにはグループになってもらい、講座の企画・運営・実施、講師の調整、地元ニーズの反映などに力添えをいただいております。また、市民大学の運営につきましても、市民大学の講座の企画、お手伝い、講師の方との調整、市民大学においてもコーディネーターなしには実施できないような状況になっています。

コーディネーター養成講座を受けて、年間10回ほどの講座がありますが、前期を座学で講座のノウハウをご理解していただき、後半を各生涯学習センター3、4か所で実際に現場での体験をしていただきます。その翌年にご自分の希望するセンターに登録していただき、コーディネーターの仲間と地域ニーズを踏まえた講座を企画していただきます。西生涯学習センター「シニアいきいきアンチエイジング」もコーディネーターが中心となって企画をしていただいています。伊藤委員のご指摘の通り、今年度は受講生が12名応募、修了生が9名と少ないことは、事務局としても課題として認識しています。コーディネーター制度は、広報誌などで周知・啓発をしていますが、活躍の場のあり方も限られた生涯学習センターと市民大学だけでいいのかという部分も踏まえながら、地域を知っている方が地域の課題を踏まえて、地域で講座を実施するというのは大変すばらしいことだと思いますので、今後のあり方について、少しお時間を頂いて検討してまいります。

臼井委員長

ありがとうございました。いかがでしょうか。  
各生涯学習センター、または市民大学いずれかということですね。  
市民大学に登録する方が圧倒的に多い状況ですか。

事務局

昔は、生涯学習ボランティアという方々に市民大学をやっていただいて、生涯学習コーディネーターが各地域でという形でしたが、基本的な考え方は一緒ですので、2年前に統合をしたという状況があります。市民大学に登録されつつ、各センターに登録されている方も最近出てきていらっしゃいますので、一緒になってより良い組織になってきていると思っています。

臼井委員長

実際に、各生涯学習センターで登録して企画しているというのは、どれくらいあるのでしょうか。  
もしかすると、登録したけれども企画に参加する方が減っている等はないのでしょうか。

事務局

中央生涯学習センターについて、①人間力の向上に資する事業の充実に市民運営講座が2つあります。「ふるさと伝統料理のルーツを知って親しもう講座」と現在未定となっている講座の2つは、中央生涯学習センターに登録いただいている生涯学習コーディネーターの企画・運営の講座です。東生涯学習センターについては、「ふれあい塾」が生涯学習コーディネーターが企画・運営する講座です。  
西生涯学習センターは、「市民運営講座（シニアいきいきアンチエイジング）」があります。回数が8回とありますが、1回だけの講座ではありません。色々な方に対して、年間8回やっていきますので、月1回まではいきませんが3か月に2回位とかなりの頻度でご活躍いただいているところ

です。

地区市民センター併設館においてはまだ市民運営講座はありません。

南生涯学習センターは市民運営講座「郷土の歴史探求『奥の細道』」と「おとこの料理教室」, 「おとこの料理教室」は長い間やっていたいている講座です。

北生涯学習センターについては, 市民運営講座「健康一番!!セカンドライフ」, 「青少年リーダー養成講座」も生涯学習コーディネーターのお力添えをいただいています。

川村委員

いまご説明いただいた中央・東・西・南・北については分かりますが, その他のセンターではそういった活動はされているのでしょうか。

事務局

生涯学習コーディネーターは各エリアの中央・東・西・南・北・上河内・河内が拠点のセンターという位置づけとなっていますので, たとえば西生涯学習センターには姿川がある等, そういう形になっておりますのでそこまで細かいところまでの配置にはなっていませんが, 一定のエリアでは活躍していただいている現状です。

川村委員

そうすると, 国本地区なのですが, 相談すればそういった方々に来てもらえるのでしょうか。

事務局

もちろん生涯学習センターでもそうですし, 人材かがやきセンターでも講師情報などのストックがありますし, 社会教育主事の担当の職員もいますので, 色々な力添えを出来ればと思っております。ご相談いただければと思います。

臼井委員長

実数はどうか, 何人ぐらいの方がそれぞれのところで生涯学習コーディネーターとして企画に携わっているのかと考えるのですが, 私は西生涯学習センターで生涯学習コーディネーターから立ち上がってきた講座をお手伝いしたことがありますけど, 生涯学習コーディネーター達がこちらで講習を受けて増えることを期待しています。そのときに申し上げたのが, 講座に来られた受講生に「一緒にやりませんか。生涯学習コーディネーター養成講座があるので行ってみませんか」と誘って, それぞれの生涯学習センターから送り出したらどうですかと人を徐々に増やしていくことを考えられたらいいですよと申し上げたことがあります。うまくいっているところと, 難しいところがあるようです。みなさんが関わっている生涯学習センターでも「講習をぜひ受けてきてください」と送り出すというのはどうでしょうか。

川村委員

なかなか時間的に難しい。午前中は出られない。私もまだ勤めているので,

興味があり通信教育でコーディネーターの資格を取ってはありますが、実際に「やってほしい」と人を送り出すのが難しいです。養成講座自体を出前講座のような形で、国本に来ていただいて10人集まればやってくれるというようにできれば、受講者は出てくると思います。

白井委員長

大変いい講座だし、受講したい人は潜在的にはもっといるだろうから、どんな時間帯でどんなふうにごどこでやるかの工夫の仕方があるかも知れません。貴重なご意見です。

伊藤委員

言うは易く実行は難しいというのがあります。今の生涯学習センターの受講生一般の方を見ていただければ分かると思いますが、前期高齢者くらい以上の方が大変多いです。今の受講生自身でこちらに学びに来て、自分が先頭に立ってやれるという人はものすごく少ない。それから子育て最中の人はなかなか時間が取れなくて意欲がある人もいるが、なかなか勧めきれない。生涯学習コーディネーターになったらなったで、自分で毎年、先生と交渉して企画をやるのは大変です。結局、河内に5人いたコーディネーターが、私を含めてあと2人になってしまいました。2人だけでも良い企画をしようと言っている状況です。

また、生涯学習コーディネーターを受講する人たちが、生涯学習コーディネーターではなく自分が講師になって何かやりたいという人が来ているのです。「私は他で1時間何万円ももらってやれる」というすごい人が来ているので、これはコーディネートではない。登録をしたからといって、「私、今年から活動しません」といえばそれでおしまいになります。そういったことを考えると、さきほどの50何名というのも、おそらく実数で動いている人はそこまでいない気がします。

生涯学習センターのなかにたくさんのコーディネーターがおられるところがあります。そういうところは、事前に入った人たちのグループが出来ていまして、そこに新しい人が入っていくのはなかなか大変です。そういう意味で、生涯学習センターが自前でやっている講座のお手伝いから始まって、そこで職員や講師の先生などさまざまな人との密接なつながりを持って、「いよいよ私も企画できる」というふうに育てたほうが、途中であきらめて続けられなくなる方も少なくなる気がします。募集の仕方もあるでしょうし、コーディネーターになった人がどういうことをやっていけるといシステムを作ってあげるとそれなりに定着してくるのではないかと思います。

特に今、60歳以上の方が3割になるのですから、遊び呆けているわけにはいきません。社会にいかに関与するか、80歳までというつもりで生きていかないとこの社会でやっていけませんから、そういう講座をやるべきだと思います。

白井委員長	私も外国人のための日本語の講座をやっていますけれども、1年間ボランティアになって貰うための勉強をしてもらっています。じゅうぶん学習者の前に立っていただけるのですが、「お手伝いなら」という方がすごく多いです。やっていただくと独り立ちは十分出来るのですが、その年代の方には「お手伝いなら」という方はいっぱいいらっしゃるの、そこから上手くやって流れが作れるかなと思いました。ちょっと躊躇されるので。どうでしょうか。
横山委員	これは全てに言えますね。私は自治会長をやっていますが、代わりをという「会長はできないけど」といわれます。
白井委員長	そこを一步踏み出していただく必要があると思います。そのあたりが、市民のみなさんと一緒にという私たちの課題でもあります。みなさん控えめで、最終的に「長」になるのは遠慮しがちです。女性もそうです、十分発言も立派だし十分活動しているのに「長」じゃなくて「サブ」ならと言う人が多いと思います。そこが、生涯学習的には乗り越えていきたいひとつのハードルかもしれないと思います。 それぞれ生涯学習センターでこれだったらという手堅い講座もありますし、その中でも新規の講座もお考え頂いて、私たちがまとめた事業運営の考え方、その上に立って計画案をお作り頂いていると思います。 それでは、協議事項①につきまして皆さんのご承認を頂きたいと思います。ご承認いただいてよろしいでしょうか。
全員	異議なし。
白井委員長	ご承認いただきました。ありがとうございます。 次に協議事項②「平成23年度人権教育総合推進地域事業の実施報告及び平成24年度事業計画（案）について」事務局ご説明ください。
事務局	【資料について説明】
白井委員長	この生涯学習センター運営審議会は、人権教育推進地域事業の進捗の確認や検討を行う人権教育推進会議としても位置づけられております。そういった意味からもここで皆さんからのご意見・ご質問等をいただければと思います。
栗原委員	上河内中学校での人権に関する取組、さきほどの説明にもあったとおり学校でも今までの人権教育はやってきていますが、それと併せて上河内地域でやっていただくということで進めてまいりました。Jリーグでサッカー選手をされていて、現在は車椅子バスケットの選手であります京谷さんの

人権講演会が大変好評でした。お話も上手だったのですが、子どもたちとの活動もありまして、それが子どもたちはすごく印象に残ったようです。京谷さん（講演者）の控え室に終わってから女子生徒が3人サインを下さいと来たそうです。

次の日、京谷さんのブログに写真つきで紹介されていました。学校側としては子ども達を参加させただけで、生涯学習センターで講師の手配・会場の準備まで全部やっていただきました。子どもたちにとって大変よい経験になりありがたかったです。

臼井委員長 ありがとうございます。

影山副委員長 来年、最終年度になりますが、助成を受けた後、地域や学校で人権が守られる生活が出来るということ、ぜひ先を見据えて取り組んでいただきたいと思います。小学6年生も参加しての授業だったとのことなので、いじめがない安心して学校に行けるような地域社会になっていけば良いと思います。

臼井委員長 次年度の人権教育総合推進地域事業はこの案にもとづいて実施するということでよろしいでしょうか。

全員 異議なし。

臼井委員長 ありがとうございます。予定した協議事項は以上ですが、その他ありますか。

十河委員 生涯学習センター貸館の予約受付ですが、私は姿川と城山しか知らないのですが、各生涯学習センターで予約の仕方が違うのでしょうか。

臼井委員長 なにか困ったことがありましたか。

十河委員 城山生涯学習センターは、8時半に集合し9時半まで1時間待たなければなりません。たまたま競合している場合は1時間待つて、そのあとお互いに話し合ったりジャンケンで決めたりしなければなりません。その1時間が非常にもったいないのです。だから、何か方法を考えていただきたいと思っています。

影山副委員長 中央生涯学習センターは良くなりましたよね。

待山委員 中央生涯学習センターの場合ですが、以前は6階のホールなどに100人余りが来ていて、模造紙などで貼り出した貸館の予約表の予約したい場所

に各団体のシールを貼っていたのですが、シールが小さいのと、剥がしたものがどこかについてしまう等色々問題がありました。それから、100人あまりの人が、3か月分の予約表を見て回るの、あっちに行く人こっちに行く人がいて年配の方が押されて、怪我人が出ました。それに即日そこで貼らなければ誰かに取られてしまうとか、人の貼ったところに貼ってしまう等色々ありました。代表者が来れば良いのですが、代わりの人があると、その人の一存では決められない日などもあります。ジャンケンやクジ等は公平ですが。それを止めて、下のロビーに期間を定めて予定表を貼っていただきました。そうしますと、日にちも長いですから考える時間もありますし、代表者と相談する時間も取れますので好評です。そういうやり方を中央生涯学習センターではしております。

臼井委員長

ということは、各生涯学習センターで工夫をして独自にやっているということですか。

事務局

生涯学習センターの貸館について、制度をまだあまり存じていただいてない委員の方もいらっしゃるようなので、まず概要をご説明させていただきます。

基本的に、年間の予約は4半期ごとに事前の予約が出来るようになっており、今3月下旬ですから4月から4、5、6月の3か月の場合には、4月の3か月前の1月頭頃に調整会議というものをやりまして、そのなかで予約が重なった場合に、先ほど十河委員からありました1時間早く来た人は時間がもったいないということ等があるかと思えます。

大変申し訳ないと思いますが、18センターが具体的にどの様な形で調整会議をやっているのかということまで、私ども把握してない部分もございいますので、ただ他のセンターがこういうやり方をやっているのを参考に改善するという事も出来るかと思えますので、早い時期にそれぞれのセンターの調整会議の実施手法・開催手法などこちらでとりまとめをして、「こういった手法で他のセンターはやっていますよ」と周知するなかで、それぞれのセンターでいままでやってきたやり方もあるでしょうし、込み具合などでそれぞれ適したやり方があると思えますので、情報の共有化を図る中で、改善を図ってまいりたいと考えています。

十河委員

貸館の利用者から意見が出まして、8時半前に来ても、9時半の2、3分前に来ても同じ条件で非常に不公平感があります。

臼井委員長

それは調整がきかないですか。

十河委員

それを何かいい方法は無いのかと。

影山副委員長	<p>さきほど待山委員がおっしゃった中に、少し抜けていたのは事前に借りたい団体が希望の日にち・時間・場所を入札のような形で出すということです。ですから、事務局は大変だと思いますが、それを全部整理していただいたものがロビーに貼られ、重なった所だけ調整会議するので、利用者側はストレスがなくなりました。中央生涯学習センターのやり方は利用者にとって、本当にありがたいなと思っています。ぜひ参考にやっていくといかなと思います。</p>
臼井委員長	<p>色々な工夫があると思います。さきほど事務局がおっしゃったように、それぞれのやり方を一度ご覧になって、その館その館に合った方法を選ぶということではないでしょうか。</p>
十河委員	<p>実際に皆さん、8時半前にほとんど来てしまいます。9時半ちょっと前に来る方はほとんどいないのです。その1時間はまったく無駄です。たとえば姿川のように事前申し込みをしておいて、あとで重なった方だけが調整するなど方法を取っていただきたい。</p>
臼井委員長	<p>早く来てもぎりぎりに来ても同じなのであれば、ぎりぎりに来ればいいのでは。でも、気が焦ってるんでしょうか。それだけ皆さんが利用したい、活用したいと思ってくださるのはありがたいことですよね。 では、そのほかございませんか。</p>
伊藤委員	<p>第1回目の会議のときに、この会から、県の公民館連絡協議会に出るよう言われましたので、その概要だけ少しお話します。 県の公民館連絡協議会は年間3回しか会はございません。1番最初は初顔合わせになり、2回目は恒例になっていますが教育センターで研修会があり、3回目は事業の決算報告と役員会で終わりになりますので、来年も3回あると思いますが、なかなか県全部をまとめていくのは大変のようです。宇都宮はすごく恵まれているという気がいたします。 また、活動の中で足利市の公民館活動はすばらしいということが分かりました。足利市は生涯学習センターではなく公民館という言い方をしていますが、ひとつの公民館で1万人から1万5千人といった人口規模で、公民館の職員が戸籍などの事務処理も全部やっているのです。人数的には職員は4、5人で、あとは囑託の方が何人か地域の人数に応じてやっているという形で、かなり地域に密着しています。宇都宮はそういう訳にはいきせんから。ちょっと大きなものになってしまいます。これからの目指すところは公民館を拠点にして、介護とかそういうものも、フォローができるようなセンター的な構想を持って、そこに行けば全部処置が出来るようにということを進めているようです。先進的な取組をしているなど分かりました。</p>



白井委員長

それでは、委員の皆様そのほかはよろしいでしょうか。事務局からなにかございますか。

事務局

【次回日程について】

白井委員長

2時間になろうとしています。大変ご熱心なご意見ありがとうございました。今回、第3回で運営審議会は終了するわけですが、昨年3月の東日本大震災後の1年間でもございました。それぞれの生涯学習センターでの企画や活動にも新たな課題を加えられた1年だったと思います。4月からの次年度の日常の中で、教育や経験を埋没させることなく、そうした課題も踏まえて地域・人に密着した活動を続けていく生涯学習センターであってほしいと思います。

伊藤委員のお話にもありましたが、センターという言葉の重みですね、被災なさった方が、福島あるいは宮城などから移られて住んでらっしゃるご家族がいらっしゃいます。それで話を聞いたのですが、本当に栃木県はいいところだとおっしゃいます。気候・土地柄、なによりも周りの人たちが温かいとおっしゃいます。被災を受けて来られた方だけでなく、宇都宮市に来られて住まれる方たち、外国人の方もそうですが、そういう方たちにとっても生涯学習センターがくつろぎの居場所であって、地域の人のふれあいの場所であって、なにか始められるとか、暮らしていく核になるようなものが得られる活動が続いていく生涯学習センターであり続けたいと思います。委員のみなさまは次年度も、と伺っておりますので、ぜひ平成24年度4月からもよろしくお願いいたします。次に顔を合わせるのは7月頃だと思いますが、そのときには元気な顔でお会いしたいと思います。お体に気をつけてください。次年度もどうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。